

# 一 般 質 問



上村 忠 議員

**問** 区域外就学制度の活用による「家族一緒の山村留学」の可能性について問う

**答** 子供の事を第一に考えた場合、近々に推進して実施する事業ではないと考えています。

**上村議員**  
昨年12月の定例会において光ファイバー網が全町に整備されるタイミングにおいての企業誘致、移住対策について質問をさせていただきましたが、その際、町長の答弁の中にテレワークや、ワーケーションなどの可能性について言及されました。

コロナ禍によりリモートワークできる環境は、若い単身者を中心に全国的に進んで

いるように感じます。しかし、一方で子どもがいる家庭に目を向けると地方でのリモートワークに合わせ、親と一緒に引越して、一時的に転校させるとなると現実的に難しくなります。子供を抱える家庭こそ地方の自然環境の良いところで子育てをすべきであると思いますし、そうしたいと考える親は、都会にこそ多いと考えます。

そのことに徳島県ではデュアルスクール事業として区域外就学制度を活用し、地方と都市の二つの学校が一つの学校のように教育活動を行うことができる先進的な取り組みが行っています。また、全国においてもそういった事例は増えているようです。

そこで、我が町でも同様のことが出来ないものかと考えます。親はリモートワーク等により仕事をし、子供たちは元居た地域の学校に籍を置いたまま、今金と二つの学校に通い、更には移住・定住・交流の施策である「ちよっと暮らし体験事業」や「ワーキングステイ事業」などと連携することにより家族で今金町を体験してもらえます。

一方、受け入れる学校や児童生徒においては、都市と地方の違いを感じることににより我が町の良さを再発見が出来ると思います。その上で、新たな人間関係作りの体験により学校自体の活性化にもつながるのではと考えます。

以上のことを踏まえて私は「家族一緒の山村留学」と銘打ち質問をしました。教育長の考えをお聞きます。

現在、区域外就学制度を活用して、今金町立学校へ近隣町より通っているお子さんもいます。また、令和元年度には、海外からの一時帰国に際し、日本の学校を体験させたいとの保護者から相談があり、北海道教育委員会と協議し、体験入学という形で10日間ほど受け入れた事もあり、相談にいられた方には、出来ない事もあるかもしれませんが、都度対応をします。

質問の「ちよっと暮らし体験事業」や「ワーキングステイ事業」等との連携について、現時点では考えていません。現状、学校は変化の只中で教育活動を行っています。これまで経験した事のないコロナ禍。GIGAスクール構想で授業も変化しようとしています。その面での活性化を進める1・2年だと考えています。教科書採択制度によって授業で使用する教科書が地域で違う事、授業の進み具合が違ったりするため、短期間での受け入れは子供にとっても大変な事と思っています。

かつて美利河地区で山村留学を実施していた今金町です。私も近隣町で海浜留学制度を経験し、こちらは期間が異なる教育制度と押さえています。今後、企業や人々の働き方の変化は加速していくかもしれません。デュアルスクールのような制度を決して受け入れないという事ではなく、子供の事を第一に考えた場合、今金町教育委員会としては、近々に推進して実施する事業ではないと考えています。

**教育長**

**上村議員**

**教育長**